大学院健康科学研究科健康科学専攻修士課程　カリキュラムマップ （平成29年度入学生以降）

大学院研究科のディポロマポリシー	専攻のディプロマポリシー
1. 修士課程健康科学研究科では、所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位数を修得し、かつ本研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格した者に修士の学位を授与する。 2. 修士課程修了にあっては、専攻のディポロマポリシーに到達していることを目安とする。	1. 健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識を修得している。 2. 社会的な動向に関心を持ち、関連する領域の知見を抱合して、独創的で新しい視点を提起できる。 3. 研究領域に関連する知見を尊重する姿勢と新たな課題を探求する意欲を持ち、研究領域に関連する知識に関心を持っている。 4. 人々の健康に携わる一員としての自覚を持ち、健康寿命の延伸に貢献しようとする態度を身につけている。 5. 自らが設定した研究課題を、適切な方策を用いて追究し、得られた知見を論理的に表現できる。
専攻のカリキュラムポリシー	

学問領域の構成
健康増進に係る医療および健康科学分野の基礎的知識を涵養して、健康寿命の延伸に貢献するために必要な専門的知識や技能および態度を修得できるように学問領域を設定している。人の健康を阻害する要因である障害と生体機能の維持・回復・増進の支援する方策についての知識・技術を集積する「リハビリテーション学領域」、人の生涯にわたっての健康支援や健康を維持・増進するためのケアについての知識・技術を集積する「看護学領域」および両領域に共通する医学および健康科学に関連した領域である「専門基礎領域」から構成されている。

科目編成
専門とする研究領域とそれに関連する多様な科目はもちろん、他の研究領域や専門基礎領域の科目等を幅広く履修して、本研究科の特色である多角的な視点から学際的な研究活動を実現させることを目的としており、「基礎科目」「専門科目」および「課題研究科目」の3つの科目群で編成される。
1. 基礎科目（必修科目）
本研究科の総論・導入として基礎的な科目群である健康生活を支援するために必要な基本的知識や健康決定要因など健康科学に関する知識について、「心身機能・身体構造」と「病態」について人の生活行動に関係の深い「運動系」を中心に学修する「健康科学特論Ⅰ」および「障害者」「高齢者」「家族」「健康増進」の視点から再構成し、「健康長寿」を追究するための基礎的知識を習得する「健康科学特論Ⅱ」を配置している。
2. 専門科目
(1) リハビリテーション学領域
健康長寿社会に向けて運動や行動など身体活動を中心としたリハビリテーションの基盤となる知識や技術について「障害回復支援理学療法論」および「病態運動学論」から修得する。さらに研究領域に関係する分野の最先端知識と研究手法を獲得し、新たな研究課題を探求するため運動機能解析学特論」「生体機能学特論」「終末期リハビリテーション特論」を配置している。
(2) 看護学領域
看護学の基盤として「看護理論」「看護倫理論」などを配置し、看護の本質を探究し看護実践への科学的なアプローチについて「実践看護基礎学特論」で探求する。また、医療の場が病院から在宅に移行していることに伴い、高い専門性と倫理観を背景とした在宅看護の質向上にむけた「在宅・家族看護学特論」などを配置している。
(3) 専門基礎領域
リハビリテーション学領域と看護学領域の両領域に共通し、本研究科の特色である多角的な視点から学際的な研究活動を実現させ、専門分野をより深く学修することを支援する科目を配置している。
3. 課題研究科目
「健康科学特別研究」を必修としている。ここでは、研究計画立案、調査あるいは実験計画の作成と実行、研究結果の分析と考察、そして論文執筆を通じて研究指導教員との議論を含む指導を受けながら、修士論文の完成に至る。その過程において、全ての研究科所属教員が参加する修士論文中間報告会にて、研究計画あるいは研

科目区分		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	開講時期（●） 1年 春	1年 秋	2年 春	2年 秋	健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識を修得している	社会的な動向に関心を持ち、関連する領域の知見を抱合して、独創的で新しい視点を提起できる	研究領域に関連する知見を尊重する姿勢と新たな課題を探求する意欲を持ち、研究領域に関連する知識に関心を持っている	人々の健康に携わる一員としての自覚を持ち、健康寿命の延伸に貢献しようとする態度を身につけている	自らが設定した研究課題を、適切な方策を用いて追究し、得られた知見を論理的に表現できる
基礎科目		5101	健康科学特論Ⅰ	健康生活を支援するために必要な健康決定要因など健康科学に関する知識の修得に当たり、「心身機能・身体構造」について人の生活行動に関係の深い「運動系」を中心に、神経系、運動器系、呼吸循環器系の構造・機能・病態から再構成し、基礎医学、臨床医学およびリハビリテーション学ならびに看護学の各分野の 担当教員がオムニバス方式で講義し、健康の回復・維持・増進の支援に関する専門的知識を再構成し、「健康長寿」を追究するための基礎的知識を修得する。	1. ホメオスタシスと可塑性について説明できる。 2. 遺伝子発現について説明できる。 3. 環境に対する生理機能の適応を説明できる。 4. 主要な神経疾患における病態と機能回復について説明できる。 5. 虚血性心疾患、呼吸器疾患ならびに消化器疾患の病態と治療について説明できる。 6. ヒトの歩行とその意義について説明できる。 7. 歩行の特徴を運動学・運動力学により説明できる。 8. 歩行の分析方法について概要を説明できる。	2			●				◎	○		○	
基礎科目		5102	健康科学特論Ⅱ	健康科学特論Ⅰに引き続き、ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health）に基づく「人間の生活機能と障害分類法」に従い、「活動（activities）と参加（participation）」について、「障害者」「高齢者」「家族」「健康増進」の視点から再構成し、リハビリテーション学ならびに看護学の各分野の担当教員がオムニバス方式で講義するとともに、健康の回復・維持・増進を支援に関する専門的知識を再構成し、「健康長寿」を追究するため	1. 健康とは何か定義づけ、解説できる。 2. 障害と健康との関係を解説できる。 3. 健康増進のための介入方法を理解し、説明できる。 4. 高齢者・障害者の健康問題と支援方法を解説できる。 5. 性にまつわる健康問題と支援方法を解説できる。 6. WHOの健康政策推進に関して解説できる。	2				●			◎	○		○	
専門科目	リハビリテーション学領域	5105	障害回復支援理学療法論	現代医療におけるリハビリテーションと理学療法戦略の最新の動向を基に、理学療法における対象疾患の中心である運動器障害、中枢神経障害および神経系機能障害の概要を理解するとともに、これらの障害により生じる運動機能障害に対する治療・介入方法の歴史的考察、および最近の諸説と論点を理論的に統合し新たな実践体系を構築するための理論展開を図る。そのために障害者像、評価方法、各障害への取り組み方について再考し	1. 運動器疾患・神経系疾患の病態を理解し，治療とリハビリテーションの方針を立てることができる。 2. 骨・関節障害者の評価方法と治療体系，再評価について説明できる 3. 中枢神経活動の変容と姿勢制御の評価ができる 4. 高齢者の運動生理を理解し，障害回復ための理学療法の方針を立てることができる。		2			●			◎	○	○	○	
専門科目	リハビリテーション学領域	5106	病態運動学論	ヒトが日常生活を送る上で必要な各種動作を行うためには、各関節が協調的に機能することが重要となる。その中で筋は、関節運動における主要な役割を果たしていると同時に、関節へ力学的ストレスを与えている。そのような関節への生体力学的作用を理解し、リハビリテーションを行う上で問題となる運動器障害の病態と、各種動作に及ぼす影響について学ぶ。また、その効果的な機能再建方法について学修する。	1. ヒトの起居動作を運動学・運動力学により説明できる 2. スポーツにおける身体運動を運動学・運動力学により説明ができる。 3. 骨・関節・筋の力学特性を説明できる。 4. 身体運動による関節への力学的ストレスを説明できる。 5. 外傷による運動器障害の病態を説明できる。		2		●				◎	○	○	○	
専門科目	リハビリテーション学領域	5108	運動機能解析学特論	ヒトは、地球上で生活するからには重力から逃れることはできない。そのため、姿勢の保持や動作を行う場合には、重力に抗した身体の活動が必要となる。その機能は、老化や各種疾患により低下し、日常生活に多くの問題を引き起こす。本講義では、三次元動作解析装置や筋電図を用いた運動機能の解析と、その結果に基づいて姿勢や動作能力の改善を計るためのリハビリテーション手法を先行研究から学修する。また、研究実施に向けた研究計画の立案と方法の選択を行う。	1. ヒトの歩行について説明できる。 2. 計ることの意味について説明できる。 3. 身体運動の計測手法について説明できる。 4. 研究目的と計画立案のために適切な資料を集めることができる。 5. 研究目的を設定し、それに適合した計測の実施ができる。 6. 計測結果を適切な方法で解析し、説明できる。 7. 研究報告書を作成し、その結果を発表できる。		4			●			◎	◎	◎	○	○
専門科目	リハビリテーション学領域	5110	生体機能学特論	生体機能の科学的評価ならびにその評価に基づいた機能回復・維持・増進のための方策の計画・立案などに関する知識を学修する。特に、生活機能において主要 な役割を果たしている骨格筋機能に焦点を当て、様々な刺激に対する応答から生活の質（QOL）および健康の維持増進に関連する先行研究を中心に比較検討し、総合的かつ専門的知識と技術を学修すると共に、研究実施に向けた研究計画の立案と方法の選択を行う。	1. 研究目的の設定ならびに研究計画の立案のために適切な資料を集めることができる。 2. 研究目的に適合した実験方法を選択し、その妥当性を説明できる。 3. 研究目的に適合した実験データの解析を選択し、その妥当性を説明できる。 4. 研究結果を発表し、その実験結果について議論できる。 5. 研究報告書を作成できる。		4			●			◎	◎	◎	○	○

専門科目	リハビリテーション学領域	5111	終末期ﾘﾊﾋ゛ﾘﾃｰｼｮﾝ特論	従来のリハビリテーションは急性期、回復期、維持期と構成されているが、人間として尊厳ある死を計画的に迎える、すなわち終末期に向かって展開されるリハビリテーションが近年提唱されつつある。この特論では、この時期にリハビリテーションとしてどのような介入が可能か考察し、改めてリハビリテーション技術のあり方と効果を検証する。可能であれば集中講義形式で、実際の臨床の場で実技を行う。	1. 終末期リハビリテーションの介入の構成要素を説明できる。 2. 構成要素ごとの具体的行動内容を整理して提示できる。 3. 利用者の状態把握の方法を具体的に実施できる。 4. 介入計画を具体的に立案することができる。 5. 立案した内容を、基本的な手技として実際に実施することができる。		4		●			◎	◎	◎	○	○
			生 体 構 造 学 特 論						●							
		5112	理 学 療 法 学 教 育 論	理学療法学領域で行われる教育活動の内容を精査して、方法論、効果的な教授活動、効果判定法に検討を加え、効果的な講義と実技のあり方を考察する。特に、臨床実習指導の問題点と今後のあり方を検討する。					●			◎	○	◎	◎	
	看護学領域	5126	在 宅・家 族 看 護 学 特 論	家族人数の減少と急激な少子高齢化、病院から在宅医療への移行の促進に伴い、高い専門性と倫理観を背景とした在宅看護の質向上が期待されている。在宅・家族看護学特論では、地域の中で療養している人と家族を包括的に捉え、安定した日常生活の維持に向 けた在宅看護の役割と機能について学ぶとともに、在宅・家族看護学分野をふまえた基本的な研究手法を修得する。	在宅・家族看護学特論の到達目標は、在宅看護学と家族看護学に関連する理論やモデル等について学び、それら知識を用いて現象を説明できることである。また、在宅看護学、家族看護学に関連した事例の検討により、対象の特徴と支援のあり方について深く検討するとともに、文献クリティークにより、それらの分野における研究課題、研究方法について学び、在宅・家族看護学分野の研究を実施する基礎的能力を獲得する。		4		●			◎	◎	◎	○	○
		5127	実 践 看 護 基 礎 学 特 論	看護学全体の内容的な構造を検討した上で実践基礎看護学の意義、位置づけを考察する。また、看護の本質と目的、対象、看護技術、実践への手だてに関しての研究成果を理論的および時代のトピックス性の観点から検討する。さらに、これらの領域において課題となっている事象に対し、取り組む研究方法についても考察する。	1. 看護学全体の内容を概観し内容的な構築と全体の構造をとらえ、実践をふまえた看護学の位置づけを理解する。 2. 質の高い看護実践をめざす看護の本質、概念について、理論家の多様な主張を含め、多角的な見地から検討し理解する。 3. 看護の対象についてのとらえ方、見方について、研究成果を含む多様な見地から検討し理解する。 4. 看護実践の方法論として、看護技術の意義、概念、構造等について、研究成果を含む多様な見地から検討し理解する。 5. 理論的な看護実践の方法論として、看護過程、アセスメント、看護診断、介入、成果等の実践への活用について吟味を加えた上で理解する。 6. 看護学の基盤となり、かつ時宜を得た研究課題、特徴的な研究方法について具体的に検討し考察する。		4		●			◎	◎	◎	○	○
		5128	看 護 倫 理 論	看護倫理の意義とその必要性について哲学的、理論的、社会的な見地から考察でき、「倫理」の概念、本質、原則、倫理的なジレンマについて理解する。同時に、生命倫理の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地等についても理解する。また、医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高めると共に、その専門領域に関する具体的な倫理的ジレンマについて、倫理的な調整等、解決策を含めた考察を深める。さらに看護倫理に対する研究的な課題とアプローチおよび看護倫理に関する組織的な取り組みについても理解する。	1. 看護倫理の意義とその必要性について理論的、社会的な見地から考察できる。 2. 伝統的倫理学と近代的倫理学の概括から理論的基盤に基づき、倫理の「倫理」の概念、原則、倫理的なジレンマについて理解する。 3. 生命倫理の考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地から、そのあり様を理解す 4. 看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義について理解する。 5. 看護倫理を実践していく上で必要なコンピテンシー、方法について理解出来る。 6. 医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高める。専門看護師をめざすものについては、その領域に関する倫理的なジレンマ 7. 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、看護倫理に関する組織的な取り組みについて理解する。		2			●			◎	○	◎	◎	
		5129	看 護 理 論	看護理論および周辺諸理論を体系的に理解し看護実践への活用をめざす。この活用に向けて、看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践/教育/研究への活用について理解する。広範囲理論であるロイ適応理論により、これら理論の実践への活用をより具体的に理解する。また、自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察したうえで、実践/研究/教育への具体的な活用について	1. 看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。 2. 主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践/教育/研究への活用について理解する。 3. 広範囲理論であるロイ適応モデルの理論構築、重要概念及び看護の実践/研究/教育への適用における具体的な活用について理解する。 4. 自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察して、実践/研究/教育への具体的な活用について検討する。		2		●			◎	○	○	○	
	専門基礎領域	5131	適 応 生 理 学 論	生体諸機能は、種々の刺激(ストレス)を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本講義では、生活の質(Quality of Life)や健康の維持増進において主要な臓器である骨格筋を対象に、様々な刺激(ストレス)に対する生体応答と適応機構に関する知識および予防医学から運動、疲労、休養など多角的な視点から健康を取り巻く総合的な知識を修得する。	1. 細胞外刺激とその応答について、細胞内シグナル伝達から説明できる。 2. 骨格筋、骨、心筋細胞、消化吸収機能の適応について説明できる。 3. 骨格筋の可塑性とその仕組みを説明できる。 4. 種々の環境に対する生体機能の適応を説明できる。 ⑤ 老化に伴う生体機能の変化を説明できる。		2		●			◎	○	◎	◎	

		5132	医療統計論	健康科学領域における統計処理で基礎となる問題の理解を深める。リハビリテーション学領域および看護学領域のデータ処理は、基礎的な統計手法だけではカバーしきれないことも多い。 基礎的な統計学を中心に、並行してコンピュータの進歩とともに広がってきた新しい手法も取り上げながら健康科学関連データの処理について学習する。	1. 正規分布の特徴について説明できる。 2. 標準正規分布表を用いて確率値を求めることができる。 3. t分布表を用いた2群間の有意差の検定ができる。 4. 等分散性の検定ができる。 5. 2変量データから直線回帰式を求めることができる。 6. 2変量データの相関係数を求めることができる。 7. 分散分析ができる。 8. ロジスティック回帰分析ができる。 9. 統計試験に必要な標本サイズの大きさを設定することができる。 10. 臨床試験の組み立て方について説明できる。 11. 臨床試験の種類や方法等について説明できる。		2				●		○				○
		5133	生体構造論	細胞、組織、中空性器官および中実性器官の基本的構造および特異的構造について学習し、各器官各部の機能との関連性、組織・器官形成と個体の左右対称性・非対称性との関連性について考察する。基本要素である細胞の生体膜系分子構築と超微構造、細胞の形態維持と細胞運動に関連する構造、細胞レベルの情報伝達系および器官・個体レベルの構造と情報伝達系について解説する。さらに、形態形成関連遺伝子とそれらの発現機構、立体構造の構築過程とその制御機構、細胞・組織・器官レベルでの機械的情報および4次元情報の受容と処理に関する機構解明の現状について運動器系を中心に解説し、生体構造の形成・維持の制御機構解明の方法論の問題点を討論・考察する。	1. 細胞内構造物および組織の特異的構造と機能との関連を説明できる。 2. 中空性器官および中実性器官の基本構造と特異的構造・機能が説明できる。 3. 器官系の左右対称性・非対称性と器官系発生との関連性について説明できる。 4. DNAの構造と機能について説明できる。 5. 形態形成に関与するDNA群について説明できる。 6. 細胞、器官各部、個体レベルの情報伝達・処理系について説明できる。 7. 運動器および神経系の形態形成と構造維持について説明できる。 8. 現在における4次元情報処理および構造の形成・維持の制御解析法の問題点について考察する。		2		●				◎	○	◎	○	
		5134	研究論	社会調査、ブレーン・ストーミングとKJ法、実験的研究、疫学研究および質的研究の各種研究の持つ意味と目的を正しく理解するとともに、実際の研究を通して現状や問題点の把握、研究計画の立案、解決方策の探求ならびに課題のまとめ方を理論的に遂行する方法について学修する。	1. 社会調査方法の特徴を説明することができる。 2. KJ法を用いた研究の特徴を説明できる。 3. 実験的研究の特徴を説明できる。 4. 質的研究の特徴を説明することができる。 5. 疫学研究の実際について理解を深める。		2		●				◎		○		○
専門科目	専門基礎領域	5135	対人コミュニケーション論	私たち人間は、他のモノから同種の仲間であるヒトを峻別し、ヒトならではのコミュニケーションを行う。その過程には、視線、顔、音調などの非言語的情報だけでなく、音声言語・文字などの言語的情報によるものなど、さまざまな様式の情報処理過程を含む。その発達と障害・病態およびその脳内処理過程について、最新の知見も踏まえて講義するとともに、社会の人々の精神的健康を支援・増進するという立場から、現代社会における対人コミュニケーションの重要性と問題点について検討を行う。	1. コミュニケーションの構成要素を説明できる。 2. 対人間でやりとりされる情報を列挙できる。 3. 対人間でやりとりされる情報の発信と解釈に関する発達、性差、年齢差、文化差等について、説明できる。 4. 対人コミュニケーションにかかわる障害およびその脳内過程について説明できる。 5. コミュニケーションそのものに関する問題とコミュニケーションを通して介入できる問題とを区別できる。 6. 対人コミュニケーションに関して発生しやすい具体的な事例に対して、解決に向けて介入するための何らかの提案ができる。		2				●		○	○		◎	
		5138	コンサルテーション論	対人援助専門職者として、またチーム医療の一員として援助的人間関係の在り方については常に意識を向けておく必要がある。有効な援助とそうでない援助にはどんな違いがあるのか。援助が効果的である時、援助者と被援助者の間にどのような相互作用が生まれるのか。医療現場におけるコンサルテーションについて事例を用いて、具体的に考察する。これらの学習を通して、医療現場における高度専門職者として相談、調整、指導、倫理の機能を果たす基盤を養う。	高度医療専門職者として臨床現場におけるさまざまな場面で効果的なコンサルテーションを実施できるよう、関連する主要理論の理解及び面接技法の修得等コンサルテーション能力を養う。 具体的には以下を目標とする。 1. 事例検討において積極的に他者の行ったコンサルテーションについてクリティークできる。 2. これまでに自身が実施したコンサルテーションについて事例検討し、評価、改善すべき点を述べることができる。 3. 高度専門職者として援助的人間関係を構築するために抑えるべき留意点について説明できる。 4. コンサルタンタントとして意識しておくべき倫理的問題について説明できる。		2			●			○	○	○	◎	
		5139	老年期地域健康支援論	生活習慣病の予防、介護予防など地域の老年期の健康支援対策について、その対象、方法、効果判定、調査研究方法を考察する。また、他職種との連携構築についても考察する。	1. 老年期の健康問題を整理し，説明することができる。 2. 地域の健康政策と支援内容を整理し、説明することができる。 3. 関連職種の介入方法を理解し、連携・協働を行うことの意味を説明できる。 4. 地域支援の結果をどのように評定、査定できるか、説明できる。		2		●				◎	○	◎	◎	
			運動計測学論	生活習慣病の予防、介護予防など地域の老年期の健康支援対策について、その対象、方法、効果判定、調査研究方法を考察する。また、他職種との連携構築についても考察する。	1. 老年期の健康問題を整理し，説明することができる。 2. 地域の健康政策と支援内容を整理し、説明することができる。 3. 関連職種の介入方法を理解し、連携・協働を行うことの意味を説明できる。 4. 地域支援の結果をどのように評定、査定できるか、説明できる。		2		●				◎	○	◎	◎	

課題研究科目	5141	健康科学特別研究Ⅰ	生体は、種々の刺激（ストレス）を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本特別研究では、骨格筋を主たるターゲットとし、骨格筋機能に関連する様々な生体機能とそれらに影響を与える因子を探求すると共に、生活の質（Quality of Life）や健康を維持増進していくために必要な生体応答に関する総合的な課題についての研究指導を行う。実際の研究活動を通して、生体機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を健康科学特別研究ⅡからⅢへと順次展開する。	1. 研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 2. 適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 3. 研究を実施できる。 4. 結果の吟味と考察できる。 5. 修士論文を作成できる。 6. 研究成果を発表し、討論できる。	2				●			◎	○	○	◎	◎
	5141	健康科学特別研究Ⅰ	人は、日常生活において、立つ、座る、歩く、などの各動作を繰り返し行っている。健康生活の維持、健康寿命の延伸のためには、これらの動作を行うための筋骨格系運動機能の増進・維持・回復が必要であり、欠かすことが出来ない。そのため、3次元運動解析技術を用いて各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究指導を行う。実際の研究活動を通して、運動機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。健康科学特別研究Ⅰでは、関連する先行研究を収集し、適切な研究目的の設定と方法の検討を行っていく。	1. 日常生活活動（動作）と健康について説明できる。 2. ヒトの動作分析手法について説明できる。 3. 研究テーマ候補を選択し 、関連する先行研究を収集できる。 4. 適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 5. 研究の一部を実施できる。 6. 結果の吟味と考察できる。	2				●			◎	○	○	◎	◎
	5141	健康科学特別研究Ⅰ	理学療法(PT)学研究における多様な研究方法の特徴について理解したうえで、PT学の本質と目的，対象論、実践への方法論を検討し、院生自身のもつ問題意識を明確にする。文献等の十分な検討の後、研究の意義をふまえたうえで、その事象の課題解決に合った研究計画を立案する。一連の過程において、研究の倫理の重要性と、研究のプロセスについての重要性の学びを同時に修得する。	1. PT学研究における多様な研究方法の特徴について理解できる。 2. PTの本質と目的、対象論、実践への方法論の見地から、院生自身のもつ問題意識を明確にできる。 3. 院生自身のもつ問題意識に関連した文献の検討が、多様な視点からできる。 4. PT学研究における多様な研究方法の特徴について理解できる。 5. 院生自身のもつ問題意識に基づいて、研究の概念枠組み，研究テーマの決定ができる。 6. 研究課題にそって、研究の意義を念頭に研究目的が設定できる。 7. 研究計画を立案できる。 (1) 研究デザインを構築できる (2) 研究目的に適合した対象の設定ができる (3) 研究方法を立案・構築できる (4) 上記(1)～(3)において、その妥当性および研究の実現可能性を吟味できる	2				●			◎	○	○	◎	◎
	5141	健康科学特別研究Ⅰ	初等統計学よりも一歩進んだ標準的な教科書を通読する。	医学論文に出てくる統計手法の概略を理解できるようになり、自身でも利用できるようになる。	2				●			◎	○	○	◎	◎
	5141	健康科学特別研究Ⅰ	目的：臨地（研究者が研究臨地として設定した）対象における健康と生活の質（QOL）の向上に寄与 目標：ヘルスプロモーション施策； 下記の要素を取り入れた研究による貢献 1. 公共政策 2. 環境づくり 3. 健康向上への実践的活動強化 4. 技術開発 5. 一次予防への開発支援	研究におけるバックグランドの学習と研究課題を明確化する。	2				●			◎	○	○	◎	◎
	5141	健康科学特別研究Ⅰ	看護学研究における多様な研究方法の特徴について理解したうえで、看護の本質と目的、対象論、実践への方法論の見地から、院生自身のもつ問題意識を明確にする。文献等の十分な検討の後、研究の意義をふまえたうえで、その事象の課題解決に合った研究計画を立案する。その研究計画書について倫理審査を経て研究遂行の基盤をつくる。一連の過程において、研究の倫理の重要性と、研究のプロセスについての重要性の学びを同時に修得する。	1. 看護学研究における多様な研究方法の特徴について理解出来る。 2. 看護の本質と目的、対象論、実践への方法論の見地から、院生自身のもつ問題意識を明確に出来る。 3. 院生自身のもつ問題意識に関連した文献の検討が、多様な視点から出来る。 4. 看護学研究における多様な研究方法の特徴について理解出来る。 5. 院生自身のもつ問題意識に基づいて，研究の概念枠組み、研究テーマの決定が出来る。 6. 研究課題にそって、研究の意義を念頭に研究目的が設定出来る。 7. 研究計画を立案できる。 (1) 研究デザインを構築できる (2) 研究目的に適合した対象の設定が出来る (3) 研究方法を立案・構築出来る (4) 上記(1)～(3)において、その妥当性および研究の実現可能性を吟味出来る 8. 研究計画に沿って、研究倫理審査資料の作成が出来る。	2				●			◎	○	○	◎	◎
	5141	健康科学特別研究Ⅰ	家族人数の減少と急速な少子高齢化、病院から在宅医療への移行の促進に伴い、高い専門性と倫理観を背景とした在宅看護の質向上が期待されている。健康科学特別研究Ⅰ～Ⅲでは、在宅看護学の学問を用いて、在宅看護の質向上と対象者のQOL向上につながる研究課題を見出し、研究計画に基づき、研究手法を用いて論文としてまとめる学術的な取り組みについて学修する。	自己の研究課題に関わる在宅看護学分野における最新の知見と研究方法の理解を深め、研究計画書を作成することができる。	2				●			◎	○	○	◎	◎
			健康科学特別研究Ⅰに引き続き、生体は、種々の刺激（ストレス）を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々	1. 研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。												

課題研究科目	5141	健康科学特別研究Ⅱ	胎・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本特別研究では、骨格筋を主たるターゲットとし、骨格筋機能に関連する様々な生体機能とそれらに影響を与える因子を探求すると共に、生活の質(Quality of Life)や健康を維持増進していくために必要な生体応答に関する総合的な課題についての研究指導を行う。実際の研究活動を通して、生体機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を健康科学特別研究Ⅲへと順次展開する。	2. 適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 3. 研究を実施できる。 4. 結果の吟味と考察できる。 5. 修士論文を作成できる。 6. 研究成果を発表し、討論できる。	4					●		◎	○	○	◎	◎
	5142	健康科学特別研究Ⅱ	健康科学特別研究Ⅰに引き続き健康生活の維持、健康寿命の延伸のためめの筋骨格系運動機能の増進・維持・回復について検討を進める。そのため、3次元運動解析技術を用いて各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究指導を行う。実際の研究活動を通して、運動機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を健康科学特別研究Ⅲへと順次展開する。	1. 研究テーマの候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 2. 先行研究の文献検討から適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 3. 研究を実施できる。 4. 結果の吟味と考察および総合討論ができる。 5. 修士論文を作成のための資料を作成し、知識+F178+F179	4					●		◎	○	○	◎	◎
	5142	健康科学特別研究Ⅱ	理学療法(PT)学研究における多様な研究方法の特徴について理解したうえで、PT学の本質と目的，対象論、実践への方法論を検討し、院生自身のもつ問題意識を明確にする。文献等の十分な検討の後、研究の意義をふまえたうえで、その事象の課題解決に合った研究計画を立案する。 立案した計画に従って研究を実践して、データ採取、データ分析を経て考察して論文化を目指す。この間、特にデータ分析方法の精査を行って、研究目的にあった統計処理方法を学習する。	1. 研究計画に従って、事前の調査を実施し、データ採取、統計解析を行うことができる。 2. 研究内容の概要を報告書としてまとめることができる。	4					●		◎	○	○	◎	◎
	5142	健康科学特別研究Ⅱ	初等統計学よりも一歩進んだ標準的な教科書を通読する。	医学論文に出てくる統計手法の概略を理解できるようになり自身でも利用できるようになる。	4					●		◎	○	○	◎	◎
	5142	健康科学特別研究Ⅱ	目的:臨地(研究者が研究臨地として設定した)対象における健康と生活の質(QOL)の向上に寄与 目標:ヘルスプロモーション施策; 下記の要素を取り入れた研究による貢献 1. 公共政策 2. 環境づくり 3. 健康向上への実践的活動強化 4. 技術開発 5. 一次予防への開発支援	関連研究の文献的研究と研究計画の立案	4					●		◎	○	○	◎	◎
	5142	健康科学特別研究Ⅱ	同時に看護学研究における多様な研究方法の特徴について理解したうえで、看護の本質と目的、対象論、実践への方法論の見地から、院生自身のもつ問題意識を明確にする。文献等の十分な検討の後、研究の意義をふまえたうえで、その事象の課題解決に合った研究計画を立案する。その研究計画書について倫理審査を経て研究遂行の基盤をつくる。一連の過程において、研究の倫理の重要性と、研究のプロセスについての重要性の学びを修得する。	1. 看護学研究における多様な研究方法の特徴について理解出来る。 2. 看護の本質と目的、対象論、実践への方法論の見地から、院生自身のもつ問題意識を明確に出来る。 ③ 院生自身のもつ問題意識に関連した文献の検討が、多様な視点から出来る。 4. 看護学研究における多様な研究方法の特徴について理解出来る。 5. 院生自身のもつ問題意識に基づいて、研究の概念枠組み、研究テーマの決定が出来る。 6. 研究課題にそって、研究の意義を念頭に研究目的が設定出来る。 7. 研究計画を立案できる。 (1) 研究デザインを構築できる (2) 研究目的に適合した対象の設定が出来る (3) 研究方法を立案・構築出来る. (4) 上記(1)～(3)において、その妥当性および研究の実現可能性を吟味出来る ⑧ 研究計画に沿って、研究倫理審査資料の作成が出来る。	4					●		◎	○	○	◎	◎
	5142	健康科学特別研究Ⅱ	家族人数の減少と急速な少子高齢化、病院から在宅医療への移行の促進に伴い、高い専門性と倫理観を背景とした在宅看護の質向上が期待されている。健康科学特別研究Ⅰ～Ⅲでは、在宅看護学の学問を用いて、在宅看護の質向上と対象者のQOL向上につながる研究課題を見出し、研究計画に基づき、研究手法を用いて論文としてまとめる学術的な取り組みについて学修する。	自己の研究課題に関わる在宅看護学分野における最新の知見と研究方法の理解を深め作成した研究計画書にそって、データ収集分析を行うことができる。	4					●		◎	○	○	◎	◎

課題研究科目	5140	健康科学特別研究Ⅲ	健康科学特別研究ⅠおよびⅡに引き続き、生体は、種々の刺激（ストレス）を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本特別研究では、骨格筋を主たるターゲットとし、骨格筋機能に関連する様々な生体機能とそれらに影響を与える因子を探求すると共に、生活の質（Quality of Life）や健康を維持増進していくために必要な生体応答に関する総合的な課題についての研究指導を行う。実際の研究活動を通して、生体機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を展開する。	1. 研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 2. 適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 3. 研究を実施できる。 4. 結果の吟味と考察できる。 5. 修士論文を作成できる。 6. 研究成果を発表し、討論できる。	6						●	◎	○	○	◎	◎
	5140	健康科学特別研究Ⅲ	健康科学特別研究ⅠおよびⅡに引き続き健康生活の維持、健康寿命の延伸のための筋骨格系運動機能の増進・維持・回復について検討を進める。そのため、3次元運動解析技術を用いて各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究指導を行う。実際の研究活動を通して、運動機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を展開する。	1. 研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 2. 先行研究の文献検討から適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 3. 研究を実施できる。 4. 結果の吟味と考察できる。 5. 修士論文を作成できる。 6. 研究成果を発表し、討論できる。	6						●	◎	○	○	◎	◎
	5140	健康科学特別研究Ⅲ	立案した研究計画に従って研究を実施して、健康科学特別研究Ⅱで作成した報告書をもとに論文を作成していく。先行研究の検索と研究結果との対比、結果解釈の正当性の確認、等行って可能であれば関連学会で発表する。	1. 修士論文を作成できる。 2. 論文審査を受けて、研究概要を説明することができる。	6						●	◎	○	○	◎	◎
	5140	健康科学特別研究Ⅲ	初等統計学よりも一歩進んだ標準的な教科書を通読する。	医学論文に出てくる統計手法の概略を理解できるようになり、自身でも利用できるようになる。	6						●	◎	○	○	◎	◎
	5140	健康科学特別研究Ⅲ	健康科学特別研究ⅠとⅡの課程を修了後、得られた研究データの解析方法について討議して検討を行い、研究成果の発表の方法と修士論文の作成方法について学修する。データの解析と意味付けは、総合討論に基づいて行う。	研究成果の発表と修士論文の作成	6						●	◎	○	○	◎	◎
	5140	健康科学特別研究Ⅲ	看護の本質と目的、対象論、実践への方法論の見地から、院生自身のもつ問題意識を明確にしたうえで、院生が作成した研究計画に基づき、研究を遂行し、十分な考察を加えて修士論文としてまとめ、成果を発表する。また、その一連の過程において、研究の倫理の重要性を同時に修得する。さらに、研究課題を明らかにするにあたり、倫理的配慮の必要性と研究の適切なプロセスをふむ必要性についても十分、修得する。	1. 院生自身の持つ問題意識からの研究目的、研究方法を再検討出来る。 2. 研究倫理審査の結果をふまえ、研究の倫理配慮を再確認で出来る。 3. 研究計画にそって、研究を実施出来る。 (1) 研究対象の選択、依頼等の過程を適切に出来る (2) 研究方法の精錬、妥当性を目指した準備が出来る (3) 研究方法に基づく実施が出来る (4) 研究成果の集計・分析が出来る (5) 研究成果の考察が出来る 4. 研究を論文として作成出来る 5. 研究成果を発表し、適切な質疑応答が出来る	6						●	◎	○	○	◎	◎
	5140	健康科学特別研究Ⅲ	家族人数の減少と急速な少子高齢化、病院から在宅医療への移行の促進に伴い、高い専門性と倫理観を背景とした在宅看護の質向上が期待されている。健康科学特別研究Ⅰ～Ⅲでは、在宅看護学の学問を用いて、在宅看護の質向上と対象者のQOL向上につながる研究課題を見出し、研究計画に基づき、研究手法を用いて論文としてまとめる学術的な取り組みについて学修する。	自己の研究課題に関わる在宅看護学分野における最新の知見と研究方法の理解を深め作成した研究計画書にそって、データ収集分析を行うことができる。そして、得られた結果について、一貫性のある論文を作成し、発表することができ、研究の一連の流れを経験できる。	6						●	◎	○	○	◎	◎